

血管内治療、高齢者に有効



九州・山口編

病院の実力「血管外科治療」

医療機関別2016年実績(読売新聞調べ)

医療機関名	腹部大動脈瘤		急性大動脈解離	
	人工血管置換術 (件)	内挿術 (件)	人工血管置換術 (件)	内挿術 (件)
山口県				
山口大	5	91	9	3
県立総合医療七 地・徳山中央	0	27	0	9
	11	15	6	2
福岡県				
小倉記念	56	55	44	15
久留米大病院	34	43	28	0
飯塚	20	50	22	2
済生会福岡総合	5	73	12	1
福岡大	11	56	18	4
九州大	14	55	8	2
福岡和白	11	21	18	4
地・九州	6	23	11	0
済生会八幡総合	3	35	0	0
聖マリア	21	8	6	0
福岡赤十字	8	13	9	0
福岡市民	4	14	0	0
宗像水光会総合	4	7	6	0
北九州市立医療七	4	0	1	0
産業医大	1	0	0	0
佐賀県				
佐賀大	15	32	21	2
好生館	23	11	12	2
長崎県				
長崎大	27	16	17	49
佐世保市総合医療七	17	25	11	0
光晴会	17	27	8	0
熊本県				
熊本赤十字	36	31	37	8
済生会熊本	41	36	21	1
熊本大	17	9	9	0
大分県				
大分岡	30	1	12	0
鹿児島県				
国・鹿児島医療七	79	22	24	1
鹿児島大	27	46	10	3
鹿児島市立	1	21	8	2

「セ」はセンター、「地・」は地域医療機能推進機構、「国・」は国立病院機構。

今回の病院の実力は、動脈にできる病気を治療する「血管外科」を取り上げた。中でも大動脈は、その名の通り、全身に血液を送る幹にあたる。心臓からいったん上方に伸び、おなかへ向かうステッキのような形をしている。そこで生じる病気は命に関わる。

一覧表には、2016年に行われた腹部大動脈瘤と急性大動脈解離の治療件数を掲載した。腹部大動脈瘤は、おなかを通る大動脈にこぶができる病

血管外科治療

気で破裂すると命に関わる。直径5センチ以上になると破裂の危険性が高まるため、治療対象となる。

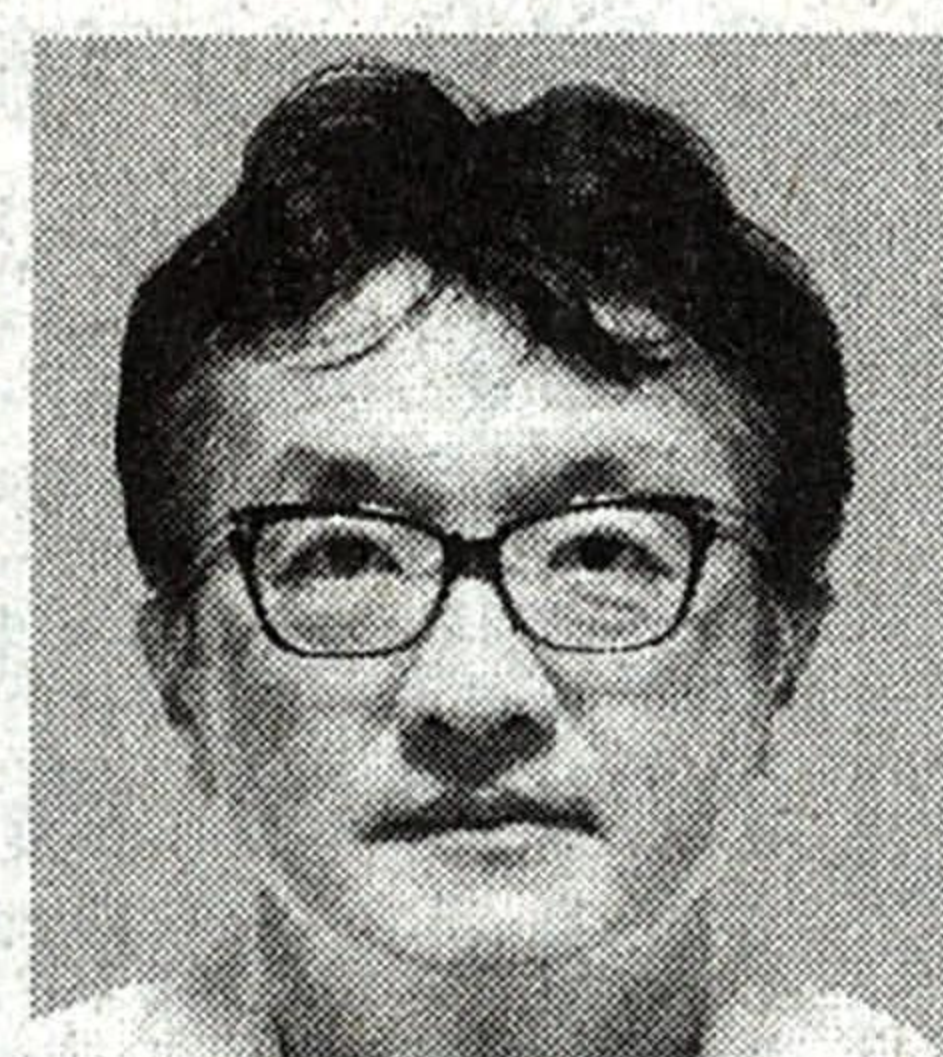
治療は、①開腹し、こぶを切り開いて人工血管を埋め込む「人工血管置換術」②太ももの動脈から細い管を入れ、こぶの部分で筒状の金網が付いた人工血管(ステントグラフト)を膨らませて留置する「血管内治療」がある。

血管内治療は、脚の付け根に数センチの切れ込みを入れるだけで、体の負担が軽いのが特長。かつては開腹手術が主流だったが、血管内治療が飛躍的に増えている。ただし、留置したステントグラフトがずれるなどして、再びこぶが大きくなる恐れもあるので、定期的な検査が欠かせない。急性大動脈解離は、大動脈

の壁の中が裂けてしまう病気で突然死を引き起こす恐れがある。だが、適切な治療が行われれば、救命率は9割に達し、腹部大動脈瘤と同様、手術や血管内治療が行われる。

安全性高い開腹手術

小倉記念病院(北九州市小倉北区)の心臓血管外科主任部長の坂口元一さん(写真)によると、同病院では、大動脈瘤の最大直径が4・5センチ以上の場合に手術を提案。治療は手術リスクや治療の確



実性を考慮するという。このうち、安全性の高い人工血管を用いた開腹手術は、腹部大動脈瘤の場合、人工心肺装置などの大がかりな設備も不要だ。ただ、退院までの

期間は血管内治療よりも長く、1週間〜10日間程度かかる。

適度な運動で予防も

開腹手術が負担となる高齢者には、ステントグラフトを使った血管内治療が有効だ。同病院では08年から行っている。手術による傷も小さく、胸部大動脈瘤など、心臓に近い部位の治療にも有益だ。坂口さんは「入院期間が短いこともあり、インターネットなどで治療法を知って希望する患者が当院では増えている」と話す。

動脈瘤は、破裂するまで自覚症状がないため、人間ドックや他の病気の検査で見つかることが多い。主に動脈硬化が原因となることから、高齢になるほど起こりやすく、同病院でも患者の多くが60歳以上という。

肥満や喫煙習慣、高血圧などがあつた人は、さらにリスクが高まる。坂口さんは「早期発見できれば怖い病気ではないが、高齢の患者らの関心が高い」と説明する。

血圧管理で経過観察

国立病院機構鹿児島医療センター(鹿児島市)心臓血管外科医長の上野隆幸さん(写真)によると、腹部大動脈瘤の治療方針はこぶの大きさや形状、患者の持病などによって異なる。



こぶは人間ドックや超音波検査などで偶然見つかることが多いが、その大半は3センチ程度と小さく、血圧の管理などを行いながら経過観察するのが一般的だ。こぶの直径が5センチ以上になると破裂の恐れが高まることから、手術による治療が必要となるという。

違和感あれば相談を

最近では血管内治療を選ぶ人が増えている。上野さんは「開腹して人工血管をつなぐ手術に比べて局所麻酔で済む場合もあり、高齢の患者らの関心が高い」と説明する。

注意点は、細い管を通す血管の形状や、こぶができた位置によっては、手術時のリスクが高まることもあることだ。そのため、同センターではコンピューター断層撮影法(CT)による検査結果などを基に、適否を見極めている。

上野さんは「腹部や腰の痛みなどから大動脈瘤破裂が発覚することもあるので、違和感を感じたらすぐに医療機関に相談してほしい」と話している。